

第26回 市長と話そう会

- ◆日 時 令和2年3月3日（火）19：00～21：00
- ◆場 所 本町公民館
- ◆出席者 温泉通り振興会 前田浩尚会長他 10名



市民の皆様と市長が直接語り合う「市長と話そう会」第26回目は、温泉通り振興会他の皆さんと「武雄の観光力と温泉通りの取組み及び北部商店街の方向性について」という内容で意見交換を行い、多数のご意見をいただきました。以下、抜粋して掲載しております。

（参加者）

温泉通りは武雄の顔としてありたい。駅から温泉通りまでの導線の工夫が必要であり、北部エリア全体の発展を考えた方がよい。

また、武雄に来られた方をどのようにリピーターとして、宿泊させ温泉通りに引き込めるか官民で協議が必要である。

（参加者）

各店舗用の統一したデザインの看板を作成するなど、歩きたくなるような雰囲気づくりをつくらないといけない。

また、温泉通りのPR動画をつくってケーブルテレビで流せないかなど話をしている。

（市長）

駅から温泉までの賑わいづくりに着手する。新幹線開業までの2年で面的な整備を行いたい。この2年が大事である。来る人、使う人が楽しい空間をつくる必要がある。

（参加者）

現在コロナで宿泊施設も厳しい状況であるが、収束したときに武雄に早くお客様が来てもらえるような仕掛けを行いたい。ピンチをチャンスに変える。

（参加者）

新幹線開業をチャンスと捉えた今後の取り組みとして、観光地としての「おもてなし」の雰囲気を街中に漂わせる必要がある。観光客に挨拶や一声かける運動はどうか。

また、観光地としての統一したスローガンが必要と考える。

現在、市が行っているナイトタイムエコノミーと組合せのイベント実施も。

(参加者)

他の地区では、空き店舗対策がうまくいっている。温泉通りも空き店舗の活用に力をいれていかないといけない。

(市長)

西九州のハブ都市として、武雄だけにとらわれず、西九州のエリアで考える必要がある。交通の要衝である武雄の特性を活かして、2年後の新幹線開業にむけて注力していく。